



りんご生産情報（4月ふれあい号）

令和3年4月5日
JAつがる弘前
弘前北地区営農係

3月の平均気温が高く推移したため、りんごの生態も平年より10日ほど早まっています。
SSの通路確保や試運転等、薬剤散布の準備は遅れないようにしましょう。
生態に合わせた防除と降雨前散布、適正散布量で黒星病防除を徹底しましょう！

《 ふじの生態 》

4月5日現在、管内ふじの発芽日は平年より10日ほど早く推移しています。今後の気温が平年並みに推移した場合、平場で展葉が確認されるのは4月10日頃と予想されます。

場所	年度	発芽日	展葉日(予想)
鬼沢	本年	3/31	(4/10)
	前年	4/1	4/13
新和	本年	3/31	(4/10)
	前年	3/31	4/14
三和	本年	3/31	(4/10)
	前年	3/31	4/13
十腰内	本年	3/31	(4/10)
	前年	4/1	4/13
農協平均	本年		
	前年	4/1	4/14
	平年	4/10	4/18
りんご研究所	本年	3/30	
	前年	3/29	4/13
	平年	4/7	4/18

3月の気象経過（弘前アメダス）

- 平均気温：5.4℃（平年比+3.5℃）
- 降水量：80.0ミリ（平年比103%）
- 日照時間：141.1時間（平年比121%）
- 消雪日：3月18日（積雪ゼロ）

○発芽日

頂芽の頂部が破れ、青味の現れたものを3個以上認めたととき。

○展葉日

正しい葉形をした葉を1枚でも認めたととき。

今後の気温が平年並みに推移した場合、消雪が早い平場では4月11日頃からの降雨で黒星病の子のう胞子が飛散すると予想されます（4月2日現在）。

前年の飛散始めは、りんご研究所で4月1日、ピークは4月20・21日となりました。

ふじの展葉1週間後頃の散布が黒星病防除のスタートとなります。散布予定日に降雨が予想される場合は、降雨前散布を徹底しましょう。

また、生態の遅れで散布間隔が開く場合は、ベフラン液剤による特別散布を実施しましょう。

※散布日は平場を基準としています。

回数 (散布量)	散布時期 (散布日)	対象病虫害	薬剤名 及び調合順序	倍数	1000ℓ 当り薬量	防除上の注意
1 (300ℓ)	ふじの 展葉1週間後 (4月17日)	リンゴハダニ ハマキムシ類 キンモン・ギンモン 黒星病・モニリア病	精製マシン油 ダズバンドF ベフラン液剤	200倍 3,000倍 1,000倍	5ℓ (1/4) 167g×2 500ml×2	サンホーゼカイガラの発生が見られる場合は、アプロード1,000倍も使用しましょう。ベフランは最後に調合しましょう。 
ベフラン液剤による 特別散布		※特別散布実施の目安 ① 今後の気温が平年並みまたは低めに推移し、生態の停滞により開花が遅れる場合				
2 (320ℓ)	ふじの 開花直前 (4月27日)	黒星病・モニリア病 うどんこ病 シラカネハダニ	カナメFR カスケード乳剤	4,000倍 4,000倍	250ml×1 250ml×1	前回との散布間隔は10日以内としましょう。

《 野ねずみ対策 》

本年は苗木や若木の食害被害が散見されます。ネズミ穴を見つけ次第殺そ剤を投入し、密度低下をはかりましょう。

《 凍霜害防止対策 》

花芽の耐凍性は発芽期（-2.2℃）から開花期（-1.5℃）まで低下し、各ステージで限界温度を下回ると被害が発生する恐れがあります。降霜は、前日午後7時の気温が6℃以下で、晴天無風の場合に危険性が高まりますので、今後は気象情報などにも注意しましょう。

燃焼資材の着火は、危険温度の1℃高い時点で点火し、防霜ファンでは始動温度を2℃に設定しましょう。